

中田かわら版 5 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■このひとに会いたい<72>

文武両道 地域に愛と喜びを

阿部 忠弘さん (76)

南親交会



中田中央公園で早朝 5 時、キジの「母衣 (ほろ) 打ち」(羽をばたばた勢いよく羽ばたくしぐさ) を撮るため 24 日間、通ったという伝説的な人物が阿部さんである。「タウンニュース」(No.681) で紹介されたこともある。阿部さんの鳥好きは小学生のころから。グリコキャラメルを買うと箱の中に点数が書かれたカードがありある点数を集めるとつがいのジュウシマツがもらえた。それを手にした時の感動が今も忘れられないという。

阿部さんは北海道紋別郡湧別町の生まれ。北海道東部オホーツク海沿岸に近い。実家の庭には家の屋根より高いナナカマド (七竈・バラ科の落葉樹) が 5 本ぐらいあり、秋になるとその木にヒレンジャク (緋連雀・ツグミくらいの大きさの美しい小鳥。シベリアで繁殖、日本に渡来) の大群が鈴なりになって赤い実をついばむ光景は壮観そのもの。動物も兎、綿羊、鶏など飼っていたというから少年時代から自然の中で過ごしていた。高校時代はマラソンとスケート。高校卒業後、東京の大学に行くため上京。大学同期の有名人には星野仙一 (元中日監督) がいた。昭和 44 年、生命保険会社に就職。会社ではラグビー部 (金融リーグ、生保・損保・簡保) に入り優勝したこともある。野球 (OFB リーグ 45 歳以上) も春・秋のリーグ戦で活躍。オールスター戦で東京ドームで試合をやったこともあった。社内運動会のクラブ対抗リレーでもスタートやアンカーを務めるなど大活躍。抜群の運動能力とスポーツを通じて得た人間関係や喜びは、後に地域に住んで大きく貢献することになる。

昭和 51 年 10 月、東京から中田に転入。中田は昔からスポーツ、文化事業、福祉活動など盛んな土地



阿部さんとキジの写真アルバム (中田文化祭 ・22.11.06)

柄。自治会活動にも積極的参加、協力。連合自治会の「健民祭」のリレー選手やソフトボール大会などで地元で大きく貢献。信頼される存在となる。その後は体育指導委員 (現スポーツ推進委員) 5 期 10 年環境事業推進委員 (6 期 12 年継続)、中田スポーツ文化振興会 (30 年)。泉区が戸塚から分区した 4 年後 (平成 2 年)、泉区レクリエーション協会 (小山俊一会長) の創立メンバー。設立から 33 年、今も活躍中だ。鎌倉観光文化検定試験 1 級 (同 1 期生)、神奈川県検定横浜ライセンス 1 級の資格者でもある。趣味はウォーキング、写真撮影 (デジカメ。サークルで講師から勉強

した本格派)、ラジオで英語講座、ウクレレでメロディー演奏 (ヤマハ音楽教室に通った)。町内の老人会の誕生会などで披露。自ら編曲も 50 曲。好きな言葉は「七転び八起き」「早起きは三文の徳」「人生下り坂最高」。何事も誠心誠意、一直線。自分も喜び、他人も喜んでくれたら最高と考えている。阿部さんの前向き人生は今や上り坂。その活動は衰えを知らない。

(宮田貞夫)

～一人ひとりが CO2 を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

■「中田むかしの話」<3>

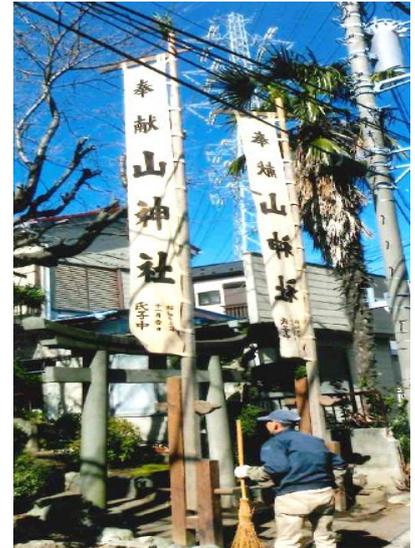
葛野の「山神社」

元泉区歴史の会会長 宮本 忠直著

戸塚苑住宅の中の中田南5丁目48-30に、「山の神」と呼称されている神社がある。

周りをすっかり住宅に囲まれているが、中宮つきの社殿や立派な鳥居も建ち、境内はいつも綺麗に掃き清められ、深く信仰されている神社であることが分かる。

山の神であるから教科書的にいうと大山祇神<おおやまずみのかみ>がお祀りされていることになるが、御祭神についての詳しいことはわかっていない。ご神体として安置されているのは板碑で、今から670年ほど前の元徳2年(1330)と記されており金属や石碑に刻まれた記録文(金石文<きんせきもん>)としては中田最古のものである。実物は盗難にあい現在は無い。



山神社の幟立て

山神社の由来等も前述したように詳しいことは分からないが、明治前の字名に「山神脇」があり、現在の土地権利書に記された字名にも「山神前」や「山神後」があることから、この地域では昔から一目も二目もおかれていた神社であったことは間違いない。

住宅開発以前のこの環境は、中田では広い肥沃な水田(葛野小学校周辺)を前に、小高い丘陵の南端部に東面して祀られており(現在地)、相当な広さの常緑樹交じりの広葉樹林を境内林として持っていた。また昔は肥沃な水田の中に山神社持ちの「神田」である神饌田<しんせんでん>があったとも伝えられている。



今は15軒の人たちが氏子となってこの神社をお護りしており、毎年春の3月と秋の11月の17日に、昔通りのしきたりで祭りごとが行われている。

※ 3月は種を蒔き豊年を祈願、11月は豊穰に感謝することから五穀豊穰の願いを込めた行事である。

編集後記

3月に予定されていた「さくらまつり」は残念ながら雨天のため中止となった。本紙でも実施の様子を記事とする予定でいたので重ねて残念であった。

コロナウィルスの扱いが変わりつつある中で地域活動は以前にも増して再開の兆しがある。安全に留意する必要は引き続きあると思うが、今年度は地域の各所で賑やかな声が響くことを切に願う。(嶋)

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本正

編集委員；山木重樹、小島敏子、田中進、河内満明、松本純子、佐々木弘美、鈴木賀津彦、嶋 宏之